

実施日 平成十五年一〇月一七日

実施クラス 家政科一年A組

指導者 明神 合歡

科目名 国語（現代文）

指導領域

「読むこと」

単元名

童話の世界・宮澤賢治

教材名

教科書名
「教材名」 やまなし

指導事項

文章を読んで、もの見方や感じ方、考え方を広げ、深める。

単元の目標

- ・宮澤賢治の童話「やまなし」を読み、その表現を味わい、イメージを豊かに広げ、作品の世界を楽しむ。
- ・探求すべき課題を生徒が自分で設定する。
- ・文章を読んだ感想などをいろいろな表現形式で表現する。
- ・記憶に残ったいろいろな言葉が、自身の成長につれ変化し、理解されていることを実感できたか。
- ・自分の設定した課題について自分なりの判断や意見を持つことができたか。
- ・創作的な活動の中で自身の言葉で自身を表現することができたか。

評価観点と評価規準

年間指導計画における位置付け
教科書『現代の国語』大修館 現代文編・詩の中で既に「永訣の朝」を学習し、宮澤賢治作品を経験したところである。
(教科書・授業との出会い)。大半の生徒の初めての賢治作品との出会いは小学生の頃の教科書・授業で経験した「やまなし」である。時を隔てて読み返す作品(一度読みすること・自身の成長の確認)＝再会と前時までの出会いの関連から作品を味わうことを体感する。また、初めての出会いにおいても言葉の豊かさを体感する。

単元の指導計画

- 五時間扱い(本時は三時間目)
- 一時間目:「やまなし」経験あり 自身の中に残っている作品としての「やまなし」の想起
「やまなし」経験なし タイトルから連想されること。
- 「やまなし」との出会いと再会 感想を書く 課題の設定
- 一時間:読みの方向性を探るために音読から出発し、創造的な表現につなげていくため。
作品のイメージ(色・音・季節・時間・匂い・三匹の蟹のストーリー 等々)表現する
- 二時間目:本時
- 四時間目:設定した課題についての主体的な授業構築
- 五時間目:まとめ(表現すること・繰返すこと・自身の変化・成長を確認すること・豊かな表現に触れること)

本時の目標

他者の感想・設定課題に触れ、多様な読みの交流に参加することができると・豊かな表現に触れること
他者の音読(多様な表現)に触れ、そのことによってもたらされたことを互いに確認しあうことができる。
身体表現としての音読を体感する。

備考	本時の学習指導計画			
	まとめ	展開	導入	過程
	次時の確認と予告	内容理解のための意見交流 他者の「もの見方、感じ方、考え方」に触れる	前時の確認と想起 前時でイメージ化した「やまなし」を意識しながら自己表現する(音読する)・興味関心を高める。	指導内容
	次時に向けての課題と方向性を確認する。	・本時の課題の確認(序文を中心に)授業通信に目を通しながら設定課題について確認する。(本時は課題の一部)	・自身のもの見方、感じ方、考え方を他者のものに触れること(知る手掛かりとなったことを思い起す。授業後の「やっぱりあれは」というクフスの声を紹介する。 ・グループでの話し読みを提案する。 ・表現者(読み手)を確認する。 ・イメージ化と音読の効果を知る。	学 習 者 ・設定課題の確認(五月と十一月を分けて)授業通信で確認する。
	本時の課題と読みの確認と次時に向けての課題を授業通信で確認する。	・設定課題の確認(五月と十一月を分けて)授業通信で確認する。 ・授業通信に目を通しながら多様な感じ方に触れる。	・音読をする。音読を聞く。 ・読み手としての音読経験や聞き手としての音読経験を感想として表現する。	学 習 者 ・作品のイメージ化を試みた前時において「母蟹の存在」に興味と関心が寄せられたことについて振り返る。 ・四人一組のグループを作り句点で順番に読みあう。
	授業に主体的に参加できていたか。	本時の課題を確認できたか。 課題に対しての自分なりの読みが持てているか。 (課題に対しての他の読みを受け止めることができているか)	(読み手)イメージ化したものを参考にしながら表現することができたか。 (聞き手)イメージ化したことよって作品をより味わうことができたか。	評価方法 評価の規準と (各目のとらえ方と)他者のとらえ方を振り返ることができたか。